

受賞報告

松田学術奨励賞を受賞して

昭和大学歯学部全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門

笠井早貴

このたびは第45回日本歯科麻酔学会認定医試験におきまして、松田学術奨励賞をいただくことができ、誠に光栄に存じます。

私は徳島大学を卒業、同大学病院での臨床研修を経て、昭和大学歯学部全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門に入局しました。入局2年目は昭和大学江東豊洲病院、そして3年目となる現在は昭和大学藤が丘病院で歯科麻酔研修を行っています。徳島大学入学時、私は特に歯科に興味があるわけでもなく、手に職を…という単純な発想で入学しました。また親が歯医者ではないため、「歯科医院の先生」が私の歯科医師のイメージすべてでした。4年生時の授業をきっかけに歯科の世界にも麻酔科があることを知り、そして興味を持ちはじめたのは5年生の臨床実習時でした。歯科治療に対し不安や恐怖を持つ患者さんに対し、先生方の優しく寄り添う姿、全身疾患に対し豊富な知識を持ち、そして歯科治療時の偶発症に対し的確に対応されている姿を見て私もこうなりたいと思うようになりました。

研修医時代は北畑教授はじめ医局の先生方に一から麻酔を教えていただき、すべてが初めて知ることばかりで毎日とても楽しく研修させていただきました。

現在私が所属している昭和大学歯科病院は、年間2,000件を超える麻酔管理症例があります。特に全身麻酔症例数は年間1,000件を超え、歯科単独の施設では全国トップクラスです。口腔外科手術だけでなく、小児・障がい者の歯科治療、インプラント埋入などさまざまな症例に対して麻酔を行っています。先述した通り2年目からは歯科麻酔研修を行っており、さまざまな科のオペに担当していただいています。歯科では経鼻挿管が一般的ですが、声門上器具を使用する手術や、他にも神経ブロックや硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔の見学などもさせていただいています。体力的に辛い時もありますが、充実した毎日を送っています。

私は普段先生方とのディスカッションを大事にしています。この3年間で多くの先生に出会い、一緒に麻酔をさせていただくことができました。たとえば喘息患者の麻酔方法に関して、どんなプランが適切か何時間も話し合ったこともあり、合併症一つに対しても先生方によって麻酔方法が全く違う場合があります。そして今までの臨床経験を基に、非常に多様な工夫をされています。教科書で勉強することも重要ではあると思いますが、日々の臨床では議論を重ね、自分の知識にできるよう努力しています。



尊敬する飯島毅彦教授（右）と私（左）

認定医試験についてですが、対策としてももちろん過去問等で勉強は行いました。しかし、配当された症例において合併疾患・内服薬についてなど、一つずつ調べて麻酔に臨むことが一番の試験対策になったのではないかと感じています。歯科医師という職業は感覚的・芸術的な部分が評価されることが多少ありますが、特に歯科麻酔という分野においては、より一層正確な知識やエビデンスが求められ、そしてそれが直に患者さんに影響することを今回の試験を通して再確認させられました。

この3年間で得た知識と技術は麻酔という範囲だけでなく、一般歯科や昨今の高齢化社会における有病者歯科などでも生かしていけると思います。認定医試験合格、そして松田学術奨励賞受賞に際し、大学の同級生も非常に喜んでくれました。同学年で歯科麻酔の道に進んだのは私だけであり、今後歯科麻酔科医として別の分野で頑張っている同期の役にも立てればと思っています。

最後になりますがこのコロナ禍の中、十分なご配慮のもと試験を実施して下さった認定医審査委員会の先生方、そして大学・研修医時代を見守って下さった徳島大学の先生方、入局してから日々ご指導賜りました飯島教授はじめ昭和大学の先生方、試験期間中疲れていた私をずっと支えてくれた主人には心より感謝申し上げます。このたびいただいた賞に恥じぬよう、再度気持ちを切り替えて日々研鑽を積みしたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。